

平成 30 年度第 2 回「三重県 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会  
関連事業推進本部」会議概要

日 時：平成 30 年 9 月 11 日（火）9:54～10:09

場 所：県庁 3F プレゼンテーションルーム

- 1 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会にかかる最近の主な動き  
事務局から、資料 1 により説明
- 2 平成 30 年度上半期の取組状況及び下半期の取組予定  
部局長から資料 2、資料 1 別紙により取組概要を説明

村木国体・全国障害者スポーツ大会局長

・先般のジャカルタでのアジア競技大会では、本県出身の山田優選手がフェンシングで金メダル、西本拳太選手がバドミントンでメダルを獲得するなど喜ばしいニュースも入った。

・（資料 2 7①）三重とこわか国体・三重とこわか大会については、開催が正式に決定されるとともに、併せて、会期も決定した。先般開催された「みえのスポーツフォーラム 2018」において、知事からそのことを報告いただくとともに、県民運動（とこわか運動）の開始を宣言した。

・（資料 2 1①）競技力の向上については、4月から「チームみえ・コーチアカデミーセンター事業」を開始し、順調に進めている。7月には、コーチ養成の世界的権威のジョン・ベールズ先生をお迎えした。

・（資料 2 1②）カナダアーティスティックスイミング連盟との事前キャンプに関する協定締結式の段取りが決まり、間もなく発表できることになった。このほか、カナダのレスリング等も合意に向けて協議を継続している。

・フラッグツアーについては、先般、「フラッグ歓迎イベント」を開催。現在、県内各地をフラッグが巡回・展示されている。各地で子どもたちに喜んでもらっているとの報告も受けており、盛り上がっているのかなと感じている。

・聖火リレーについては、9月6日に実行委員会の初会合を開催し、委員の皆さんから意見をいただいた。今後、委員会で聖火リレーのコースを検討いただく。

引き続き多くの県民の方に関わっていただくよう工夫していく。

- ・東京オリンピック・パラリンピックまであと2年、国体まであと3年、しっかりと取組を進めていきたい。

木平副教育長

- ・(資料1、別紙5) インターハイでは、三重県での開催競技14競技15種目で、観客数は37万6,300人余りで、昨年度と同競技種目と比較して3万人増であった。

- ・役員・補助員として大会を支える立場から、多くの教職員・高校生が大会運営に携わるとともに、各部局の協力もあり大会を無事終えることができた。

- ・競技成績としても、ウェイトリフティングの増田選手や体操競技の長崎選手の優勝を始め、団体で11、個人で41、合計52件もの入賞があり、今後の活躍が期待される。

- ・インターハイでのさまざまな取組の経験を活かすとともに、高まったスポーツへの気運など、よい流れを今後の大規模大会へつなげていければと思う。

田中子ども・福祉部長

- ・(資料2 2①) 上半期では、9月12日から20日までの9日間、三重交通グループスポーツの杜鈴鹿水泳場において、イギリスのパラ水泳チームの合宿が行われる。合宿中には、三重県選手・指導者による練習風景の見学やイギリスチームとの交流会を予定している。

- ・下半期では、12月1日から2日まで、同じく三重交通グループスポーツの杜鈴鹿水泳場で、第35回日本パラ水泳選手権大会が開催される。三重県としては、選手・スタッフの輸送など、大会運営の支援をしっかりと行っていきたい。

岡村農林水産部長

- ・(資料2) 上半期の取組としては、  
4①の事業で、昨年度実施したマーケティング調査も活用して首都圏ホテルでの三重県フェアの開催  
4③の事業で、GAPを推進・支援する指導員を育成するための研修会を開催などを、実施している。

・ 下半期の取組予定としては、  
4②の事業で、食材調達を担うケータリング事業者等を対象とした首都圏ホテルでのレセプション・商談会の開催を予定  
4③の事業で、都内有名レストランでのGAP認証取得食材等を使用した三重県フェアの開催を予定している。

・ **資料2-1**は、東京2020大会を契機として販売拡大を戦略的に進めるため、「東京オリパラ三重県農林水産協議会」において、現在策定を進めている戦略(案)の概要である。

・ 課題について、東京2020大会というビッグチャンスをつかみとるためには、(1)大会で飲食が提供される機会、(2)首都圏のホテル等で飲食が提供される機会、(3)大会関連イベント等でのPRの機会という3つの機会を生かす必要がある。

・ めざす姿としては、大会のあらゆる場面で選ばれる県産農林水産品をめざす中で、①首都圏における販路、②GAP等の取得による生産体制の国際化、③流通経路を含めたフードチェーンマネジメントのモデル構築、④生産から販売にいたる関係者によるネットワーク構築等のレガシーが形成され、みえの農林水産品が世界で選ばれるというステージにつなげていくこととしている。

・ 取組の具体的な方向性として、品目ごとに①誰に、②何を、③どのようにプロモーションして販売先を開拓するのかを整理している。このように具体的に品目ごとにターゲットを決めて戦略的に取り組んでいきたい。今後は、協議会で戦略を確定して、官民が一丸となって販売拡大の取組を推進していきたい。

河口観光局長

・ (資料2) 6の事業で、訪日外国人の誘致のため、旅行博での海外プロモーションやインスタグラムなどによるSNSを活用した情報発信に取り組んでいる。

・ 6③の事業で、昨年6月から始めたインスタグラムについて、更なる周知を図るため、9月下旬から「#VisitMie」キャンペーンを実施し、東京オリパラも見据え、より三重県の情報発信に取り組む予定。

・ 6④の事業で、日本初のIAGTO第1回ゴルフツーリズムコンベンションを9月28日から10月3日に開催し、来年のラグビーワールドカップや東京オリパラにお越しのスポーツ好きの旅行者にゴルフとともに、観光、食などを楽しんでもらうよう取り組んでいく。

### 3 その他

東京オリンピック・パラリンピック関係の平成 31 年度予算概算要求について、事務局で各省庁の要求状況を確認し、幹事会等を通じて各部局と共有していることを事務局から報告

### 4 知事コメント

・東京オリパラは、あくまできっかけ、チャンス。スポーツにしても、食材にしても、観光にしても、人づくりにしても 三重県がより発展していくために、三重県のものがより元気になっていくために、オリパラを活用する、オリパラをきっかけやチャンスにするということ。是非そういう視点で積極的に取り組んでほしい。

以 上